

# 消費者志向自主宣言

令和6年度活動報告（フォローアップ）

株式会社ネオビエント

2024年10月



取組方針 (要約)	活動実績 (概要)	改善	新規	参考資料
I. お客様や地域の皆様の声に誠実に耳を傾け、柔軟に対応し、満足を超えた「感動」を提供し続けること				
(1) 利用者ニーズの反映				
あすたむらんど徳島	「Happy Xmas2023」の「エリア拡大」「飲食提供の充実」	○		4 ページ
	キャリーワゴンに子どもを乗せての園内移動の制限を解除		○	4 ページ
	SNS 媒体 (Instagram・Youtube) に動画を掲出		○	5 ページ
	夏の星空観望会	○		5 ページ
川口ダム自然エネルギー ミュージアム	ウォーターサーバーの設置		○	6 ページ
とくしまマルシェ・イベント運営	イベント申込の電話受付に対応	○		6 ページ
(2) 利便性の向上				
渦の道・大鳴門橋架橋記念館	導線の整備 (床・案内サインの設置)		○	7 ページ
	注意喚起に関する案内サインの設置	○		7 ページ
四国大学交流プラザ	エントランス本棚のレイアウト変更		○	8 ページ
とくしまマルシェ・イベント運営	「とくしまマルシェ」ホームページリニューアル		○	8 ページ
II. 社員同士が互いに意見を言い合える環境を作るために、社員一人一人に誠実に向き合い笑顔あふれる企業をめざすこと				
(1) 互いの個性・考えを理解し、同じ目的に向かう				
① 働きやすい職場環境を目指した社員研修		○		9 ページ
② 定期的なヒアリングの実施		○		10 ページ
③ 業務改善への取り組み		○		10 ページ

取組方針 (要約)		活動実績 (概要)	改善	新規	参考資料
II. 社員同士が互いに意見を言い合える環境を作るために、社員一人一人に誠実に向き合い笑顔あふれる企業をめざすこと					
(2) 働きやすい環境づくりの実践					
① プラチナくるみん認定の継続			○		11 ページ
② 「えるぼし」 3 つ星認定			○		11 ページ
③ 長時間労働の削減に向けた取り組み			○		12 ページ
④ 資格取得の促進			○		12 ページ
III. 地域にとって永年愛される企業となるために、「損得」ではなく「善悪」で行動する健全経営に努めること					
① 経営計画書に基づく行動への変化			○		13 ページ
② 評価システムを使った会社の考えの共有			○		13 ページ
IV. 消費者・社会の要望を踏まえた改善 (未来・次世代のために向けた取り組み)					
あすたむらんど徳島	特別サイエンスツアー「夏休み自由研究を楽しもう」の実施		○		14 ページ
	STEAM 教育の推進		○		14 ページ
	「あすたむ子ども会社」の設立		○		15 ページ
	「木のおもちゃを作ろう」の実施			○	15 ページ
	手づくり工房「さくらキャンドル」の実施			○	15 ページ
	「森のマルシェ in あすたむらんど」の実施			○	16 ページ
	「あすたむで水の大切さを学ぼう」の実施		○		16 ページ
	「親子ふれあい学習 in あすたむらんど」の実施		○		17 ページ
	天文ボランティアの設立			○	17 ページ

取組方針 (要約)	活動実績 (概要)	改善	新規	参考資料
IV. 消費者・社会の要望を踏まえた改善 (未来・次世代のために向けた取組み)				
あすたむらんど徳島	クリスマスカップラ	○		17 ページ
	古川宇宙飛行士ミッション報告会パブリックビューイング		○	18 ページ
	女子中高生の理系進路選択支援プログラムの実施	○		19 ページ
渦の道・大鳴門橋架橋記念館	ハザードマップの QR コード掲示		○	20 ページ
川口ダム自然エネルギーミュージアム	「とくしま自然エネルギー探検隊」の実施	○		20 ページ
とくしまマルシェ・イベント運営	SDGs ワークショップの開催	○		21 ページ
	ナイトマルシェ「徳島夜市」の開催		○	21 ページ
	「ぶどう狩り」体験の実施	○		22 ページ
	「阿波おどり」運営事業の実施		○	22 ページ

## (1) 利用者ニーズの反映

### あすたむらんど徳島

#### 「Happy Xmas2023」の「エリア拡大」「飲食提供の充実」



#### 実施内容

イルミネーションなどが楽しめる「Happy Xmas2023」を実施した。

テーマを「¡Qué emoción!2nd ～感動～」とした今回は、来園されたお客様に笑顔と更なる感動を提供するため、従来よりお客様より要望が多かった「エリア拡大」「飲食提供の充実」を実施し、令和4年度よりもイルミネーションを5万球増設、県内最大の球数（40万球）・設置面積でイルミネーション事業を実施した。

また、体験型のイルミネーションを実施し、ボタンを押すと点灯するような仕掛けを園内に施した。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和5年12月2日～29日

参加者数：41,194名

イルミネーションと飲食を楽しめるように従来立ち入り禁止としていたエリアを開放し、キッチンカーを集中させて配置した。また、会場中央に机とイスを用意し、お客様に温かいドリンクや軽食を提供できる環境を整えた。5万球増球したことで参加者からは「メインの通りがとても明るくなってきれいだった。」「ボタンを押すとイルミネーションが点灯する仕掛けがあって子どもたちも喜んでいた。」とお声をいただいた。

#### キャリアワゴンに子どもを乗せての園内移動の制限を解除



#### 実施内容

施設利用時の制限の見直しとしてキャリアワゴンに子どもを乗せての移動の制限を解除した。園内の敷地が広大であるため、乳幼児が園内を移動する際には手間や時間がかかると従来よりお客様から多くの要望があった。ベビーカーでの移動では子供用の遊具や着替えなど荷物が収まりきらないことが多く、キャリアワゴンを持参されるお客様が多かった。お客様自身で身の回りの安全を確保していただくことを前提に、スタッフ巡回時にも安全確認を行い、運用を行っている。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

運営開始日：令和6年1月～

制限が解除されたことをお客様にお伝えすると「本当に子どもの移動に苦労していたので助かりました。」「大きい荷物と一緒に移動できるので負担が減りました。」とお声をいただいた。

### SNS 媒体 (Instagram・Youtube) に動画を掲出



#### 実施内容

お客様から「開催時期やイメージをもっと知りたい」というご要望を受け、それに応えるために、従来の媒体に加えて、Instagram や YouTube などの利用者数の多い SNS に動画を掲載した。これにより、より分かりやすくタイムリーな情報を提供できるようにした。

### 夏の星空観望会



#### 実施内容

夏の星空観望会  
「芝生で寝転がって星空を眺めたい」「流星群が見たい」などのお客様の声に答えるため、ペルセウス座流星群の観望会を昨年から継続実施した。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

実施日：8月12日  
時間：15：40～16：30  
参加者数：149名

#### 成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年7月6日～8月12日  
インプレッション数（表示回数）  
Instagram：949,285回  
Youtube：805,815回

テレビ・ラジオの利用が多い世代（30～50代）以外の若者世代に多くの視聴があり、新たな世代に向け情報を発信することができた。ターゲットとしては県外エリアに設定していたが、「あすたむらんのCMが流れていた。」と県内エリアのSNS利用者にも広告が一部流れるなど広範囲に周知することができた。テレビとは違いシェア機能など視聴者から情報を共有することができるので拡散に長けた発信となった。

## 川口ダム自然エネルギー ミュージアム

### ウォーターサーバーの設置



#### 実施内容

来館者の健康を最優先に考え、熱中症対策の一環としてウォーターサーバーを新たに設置した。来館者が自由に水を飲めるようにして、夏季の暑さが厳しい時期には、体調管理をサポートするための環境整備に努めた。サーバーは館内入口通路スペースに配置し、全ての来館者が簡単にアクセスできるようにした。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

設置期間：令和6年8月5日～11月4日  
ウォーターサーバーの設置後、多くの来館者が利用された。特に、家族連れや高齢者の利用が目立った。

## とくしまマルシェ・イベント運営

### イベント申込の電話受付に対応



#### 実施内容

イベントの事前申し込みがウェブが中心になっている昨今において、県の受託事業においても同様にウェブのみの申し込みイベントが増えてきた。当社ではどうしてもウェブでの申し込みができない方にあわせて電話での申し込みを受け付けることで老若男女問わず多くの方にイベントに参加するチャンスを提供することができた。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

電話で申し込みを受け付けた方から「スマホを持っていないが孫に参加させたかったから申しこめてよかった」と喜んでいただけた。

(2) 利便性の向上

渦の道・大鳴門橋架橋記念館

導線の整備（床・案内サインの設置）



実施内容

繁忙期に「どの列が何のために並んでいるのかわからない」とのご意見を受け、受付ロビー内の導線を明確にするため、床のマーキングや案内サインを整備した。

成果（利用者の反応や数値等）

混雑時や緊急時でもスムーズに移動でき、安全に行動できる環境を提供している。

注意喚起に関する案内サインの設置



実施内容

近年の猛暑を踏まえ、施設内に飲料自動販売機やウォーターサーバーの設置が難しい状況下でも、来場者が安全に過ごせるよう、熱中症予防の注意喚起を促す案内サインを各所に設置した。

成果（利用者の反応や数値等）

入場される皆様に適切な水分補給や休憩を促し、快適な環境を維持している。



## 四国大学交流プラザ

### エントランス本棚のレイアウト変更



#### 実施内容

館内出入口付近の大型本棚の設置物が古く、物を沢山置いている事もあり光を遮ってしまい暗い印象であったので、設置物・レイアウト変更を行った。書物を厳選して平置きを多くし、植物を増やしつつ柔らかい光の照明を増やした。建物奥のカフェカウンターへの導線となるよう、入館時のファーストビューで開放的に見ていただけるようになった。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

足を止めて本を眺める方が増え、本を購入出来るのか問い合わせをいただいた。  
「景観が明るくなった」と大学本部にも好評いただいた。

## とくしまマルシェ・イベント運営

### 「とくしまマルシェ」ホームページリニューアル



#### 実施内容

「HPリニューアル」を行い、より見やすく、情報を伝えやすい構成にした。また、出店希望やステージ出演等、問い合わせもHPよりできるようにした。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

「情報が見やすくなった」「問い合わせがしやすくなった」等、閲覧し来てくださった方からお声をいただいている。

(1) 互いの個性・考えを理解し、同じ目的に向かう

① 働きやすい職場環境を目指した社員研修

実施内容

令和5年は4月に迎えた新入社員に導入研修で、コミュニケーション・モチベーションアップを図り、グループワークや話し合いを通してディーセントワークについて考えた。

また各施設で行う研修時においても、普段あまり関わりのない部署の社員同士が触れ合えるよう、屋外ゲームなどを実施することで、お互いを知り、活発な社内コミュニケーションを生み出せるよう企画している。

成果（利用者の反応や数値等）

新入社員が、社会人としての人との関わりを学ぶ意義はもちろん、ベテラン社員同士の関係性がより密になり、あらゆる状況下で「お互い様」の助け合う価値観の醸成に繋がっている。

また各部署が、それぞれに目標とする地域貢献を「コンセプトブック」にまとめ、部か一人ひとりに伝えたことで、全社員に自分が働く意味が明示され、共通の価値観が持てるようになった。

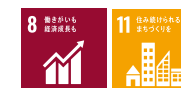
社員間のコミュニケーション例



渦の道・大鳴門橋架橋記念館

実施内容

来場者からの問い合わせが多い孫崎展望台や相ヶ浜（あいがはま）海岸、郵便ポスト、喫煙所、トイレの場所などについて、より適切なお案内ができるよう、スタッフが休館日を利用して意見交換を行いながら、実際に周辺を歩いて把握に努めた。



成果（利用者の反応や数値等）

この取り組みにより、職員間のコミュニケーションが活発化し、より迅速かつ正確な対応を実現できるよう、現地確認を通じて知識を深めている。

### ② 定期的なヒアリングの実施

#### 実施内容

全社員を対象に働きやすい職場環境づくりを目指し、悩みや困りごと、また本人の将来設計などを年2回（夏・冬）ヒアリングしている。人事担当者2名が話を聞いている。聞き取った課題や問題に対処し、部署での対処が必要なものは本人の了承のうえ上長に対処を指示している。また重要な課題に対しては役員会で検討するなど解決に導いている（設問内容：職場の雰囲気、仕事内容や業務量、今後の働き方、会社への要望等）。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

人数の不足を感じる時間帯や、時間が掛かったり、ミスの発生しやすかったりする作業の見直しなど、社員の感じている課題や問題、疑問などを解決することで、仕事に対する士気も高まっている。また対象者全員に事前アンケートを取り、問題の事前整理やヒアリング時間の短縮（効率化）に役立った。

### ③ 業務改善への取り組み

#### 実施内容

令和5年度も「働く時間の軽減（残業減少・休暇取得促進）及び会社の利益率の向上」を目的として「業務効率化部会」において、各施設・部署における改善実施事項の内容や手法とその効果を毎月確認して、有用な改善は全社に展開して共有を図っている。令和6年度は、環境構築部から全社総務部会にて引き続き業務改善に取り組んでいる。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

令和5年度はインボイスや電帳法に合わせた経理システムの見直しや、勤怠データの電子化・処理システムを構築したことで、残業時間や有給取得日数を全社的に一括管理する体制を整えた。これらの電子化と管理システム構築により大幅に処理時間を軽減を図ることができている。

## (2) 働きやすい環境づくりの実践

### ① プラチナくるみん認定の継続

#### 実施内容

令和元年6月に認定された「プラチナくるみん」の継続認証を受けるための各取り組みを実施している。両立支援策として、

- ① 男性の育児休暇取得の更なる促進
- ② 未就学児を育てる社員の短時間勤務の促進等を行っている。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

- ① 男性の育児休暇取得について令和5年度は2名が合わせて約3ヶ月間取得した。  
※うち1名は産後パパ育休（出生時育児休業）の取得
- ② 女性社員1名が育児休暇を取得したため、令和5年度の育休取得者は、合計3名となった。

### ② 「えるぼし」3つ星認定の継続

#### 実施内容

女性活躍推進法に基づき、一般事業主行動計画の策定・届出を行い、女性の活躍推進に関する取組である「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の評価項目5つ全てを満たしたため、令和5年5月11日「えるぼし3つ星」（認定段階3）を認定された。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

- ・正社員に占める女性労働者の割合 42.4%
- ・「女性労働者の平均継続勤務年数」÷「男性労働者の平均継続勤務年数」=72.3%
- ・労働者の法定時間外労働及び法定休日労働時間の合計時間数の平均が各月全て45時間未満
- ・女性労働者の非正規社員から正社員への転換6名、概ね30歳以上の女性の正社員としての採用3名など

### ③ 長時間労働の削減に向けた取り組み

#### 実施内容

勤怠管理の電子化により、月別・年別の個々の勤怠管理が管理システム上で管理でき課題の把握が容易となった。社内の各総務担当により、毎月の残業時間の部署別・個人別の数値管理を行い、振り返りと残業の原因の特定、その対応を行っている。これまでの業務改善の取り組みや、効率的なリソース配分による結果は実りつつある。結果としては、各施設で来場者の増加などの業務集中により、全社的には残業時間の短縮に至らなかった。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

平均月残業時間：令和5年度  
(8.6時間)

令和5年度はコロナ感染症の5類移行により、施設ではイベントが増加したものの残業時間はほぼ同程度で推移した。また一時的に業務が集中していた施設でも業務集中の状態が解消され、時間が短縮された(0.4倍)ため、全体では0.7倍の短縮が図られた。

### ④ 資格取得の促進

#### 実施内容

資格取得補助金支給制度を継続実施している。制度は社員に浸透しているが、新入社員は導入研修時に周知している。資格は実務上の必要から取得することが多いが、若い社員を中心に将来を見据えた自分のやりたい仕事や、それぞれの部署で将来必要になりそうな資格の取得など、キャリアづくりのための資格チャレンジも増加している。資格の内容にもよるが資格取得により資格手当を給与に付与しており、資格取得促進につながっている。

#### 成果（利用者の反応や数値等）

令和5年度制度利用件数9件  
クレーン特別教室・映像音響処理技術者資格・甲種4類消防設備士・フルハーネス型墜落制止器具特別教育(4)・色彩検定・食品衛生責任者

### ① 経営計画書に基づく行動への変化



#### 実施内容

年2回の社員総会（6月経営計画発表会、11月上旬報告会）を事業所別に開催している。

「経営計画書」に基づき、社員総会にて各事業の進捗状況・自社の課題・中期計画・単年度計画をより明確にし、社員同士の目線をあわせて行動している。



#### 成果（社員の反応や数値等）

「経営計画書」では社内ルール、社内共通用語、今期の社内信条なども取り入れ、事業所別に実施していることで、各部署の具体的な説明もできることから、「会議に集中でき、自分の担当部署の課題がよくわかる」、「社員としてのルールが明確になり、あいまいであった言語が共通化され、わかりやすくなった」等の意見が多数挙がっている。

### ② 評価システムを使った会社の考えの共有

#### 実施内容

社の考え方の共有を一層深めるために社員一人一人に対して、絶対評価による人事評価システムを引き続き導入している。各社員の業務・状況に合わせて本人と上司が話し合い上期・下期と年2回行動目標・数値目標を設定し、中間面談を実施したうえで評価を行う。2か月に1回上司と本人が面談を通じて進捗を確認し、目標達成に向けて考えをすり合わせることで、社の方針や考え方の共有を図っている。

#### 成果（社員の反応や数値等）

評価システムにおける面談は、特に仕事の細かい部分についての「相談」の場となっており、進む方向性がわからなくなった時や迷った際に非常に役立っている。「上司が忙しそうで聞きづらい」という問題も、この面談を行うことにより、「聞く機会」を部下にきちんと与えることができ、部内の関係性を円滑にしている（令和5年度 評価・目標設定面談2回、中間面談4回実施）。

また、この評価システム以外にも年2回、人事部署によりヒアリングを実施している。

あすたむらんど徳島

特別サイエンスツアー「夏休み自由研究を楽しもう」の実施



実施内容

夏休みの自由研究をテーマにしたサイエンスツアーを5回実施。サイエンスコミュニケーターが体験を通じて自由研究のサポートを行った。



<各回テーマ>

- ①「あすたむらんどにいる昆虫の観察」
- ②「あすたむらんどに生えている植物の観察」
- ③「結晶の観察」
- ④「空気の色」
- ⑤「磁石の性質について」



成果（利用者の反応や数値等）

参加人数：合計 71 名

実施日：

- ①令和6年7月21日：15名
- ②令和6年7月28日：6名
- ③令和6年8月4日：15名
- ④令和6年8月11日：17名
- ⑤令和6年8月25日：18名

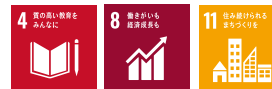
「色々な方と一緒に取組に参加できたのは良い経験になった」「自由研究のコツが分かった」「自宅でも実験してみる」等の声を頂き、自主的な探求心や知識の習得につなげることができた。

STEAM 教育の推進



実施内容

連続講座を行い、p5.js や SPACEBLOCK を使ってプログラミングでビジュアルアートを作成した。コンピュータを使って自由に創造する力や、発想力を養い、作品について共有する場を設けることで、自分の考えを伝える力や、他人の考えを取り入れる柔軟さを育む内容とした。



成果（利用者の反応や数値等）

参加人数：10 名

実施日：

- 令和6年5月19日
- 令和6年6月2日
- 令和6年6月23日
- 令和6年7月7日

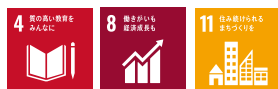
参加者1人1人を四国大学学生がサポートしたことで、「丁寧な指導で作って楽しかった」「このような技術に触れる機会を設けて頂きありがたい」等の声をいただいた。また「今後もプログラミングに関するイベントを増やしてほしい」という声もあり、プログラミングに対する興味や学習の意欲を引き出す事ができた。

### 「あすたむ子ども会社」の設立



#### 実施内容

本当の仕事の楽しさを体験してもらうために会社設立から株主総会・配当までを子どもだけで行う「子ども会社」を設立し、職業観・勤労観の醸成を図った。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

参加者数 :29 名

実施日：令和5年10月15日～令和6年3月31日（計14回）

子どもたち自身で商品開発から販売までを行うことで、社会の仕組みを体験していただいた。

「会社の内容や大変さを知れて勉強になった」「販売が興味深く、いい経験になった。」等の声をいただき、イベント通じて子どもたちの成長に貢献することができた。

### 「木のおもちゃを作ろう」の実施



#### 実施内容

アクティブシニアの篠原靖治氏を講師に招き、木材の特性や工具の扱い方を学んでいただいた。電動糸のこを使用する工作イベントはしばらく実施がなかったため、親子で一緒になって工作されていた。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年6月29日

時間：13:00～16:00

参加者数：7名

### 手づくり工房「さくらキャンドル」の実施



#### 実施内容

県内企業へ協力を仰ぎ、廃棄予定の化粧品を人気メニューのキャンドルに取り入れて実施。また、廃材の布の切れ端を使用して蓋を装飾。

SDGs⑫「つくる責任つかう責任」を学ぶ。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年3月1日～4月7日

参加者数：1,358名

お客様の声：ちりめんの布を使用して飾り付けしたことで、子どもだけでなく年配の方からも人気を博した。選択肢も豊富に準備していたため、複数個作成されるお客様も見られた。



「森のマルシェ in あすたむらんど」の実施



実施内容

県内で活躍する作家の作品発表の場および県民がハンドメイド作家の想いと技術に触れる機会を創出することを目的に、「ナチュラルで暮らしやすいまち」をテーマに「森のマルシェ」を実施した。

成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和5年12月9日・10日  
参加者数：8,221名



ハンドメイドブースでは作家と直接コミュニケーションが取れる為、市販品とは異なる作家のこだわりやお勧めを聞きながらお気に入りの一品を楽しそうに吟味していた。来園者および出店者がSDGsターゲット11「住み続けられるまちづくりを」・ターゲット12「つくる責任つかう責任」について理解を深められる機会を提供した。

「あすたむで水の大切さを学ぼう」の実施



実施内容

世界的規模で水の持続的安全性の確保が難しくなっていること、水の大切さやについて職員が子ども達とその保護者に説明し、日常生活でできる取り組みについて啓蒙活動を行った。合わせて、職員手づくりの水鉄砲を配布し、花壇へ水やりを実施した。

成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年7月28日  
参加者数：38名



水の大切さについてのお話を真剣に聴いていただき、水鉄砲を使っての花壇への水やり体験では元気に活動いただいた。「水の出しっぱなしはやめようね」や「お花も水がないと元気でないね」など子ども達とその保護者の間で会話が生まれており、水の大切さを考えてもらう機会を提供できた。

「親子ふれあい学習 in あすたむらんど」の実施



実施内容

徳島県地球温暖化防止活動推進員の佐藤貴志氏をお招きし、脱炭素社会の重要性と、小松島高校における河川浄化の取り組みについて解説していただいた。また、世界は空でつながり、空気は自由に動いていることを実感してもらうために、巨大シャボン玉体験も併せて実施した。



成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年9月23日  
参加者数：28組 86名

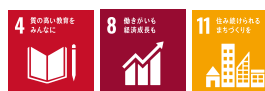
SDGsに関する活動の説明や「脱炭素」をキーワードとして覚えて帰っていただくように復唱する、シャボン玉体験など工夫を施したことで、参加者からは「SDGsの取組や脱炭素社会の重要性を感じられた」との反応があった。

天文ボランティアの設立



実施内容

エイジレス社会におけるアクティブシニアの生涯学習への貢献や子どもの理科離れ防止、さらにリカレント教育推進などを目的としてボランティアを組織した。



成果（利用者の反応や数値等）

ボランティアスタッフが、天体観望会・宇宙少年団へ参加することで、社会貢献の機会の創出につながるよう実施した。

クリスマスカップラ



実施内容

鳴門教育大学放送研究会と連携しオリジナル番組を制作。二作品制作し12月の開園延長時に夜間特別企画として投映を実施した。



成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和5年12月2日～3日、7日～25日  
時間：17:15～17:45、18:30～19:00  
参加者数：248名（合計）



県内学生の成果発表の場をプラネタリウムにて提供した。

古川宇宙飛行士ミッション報告会パブリックビューイング



実施内容

古川宇宙飛行士のミッション報告会に関するパブリックビューイングを視聴いただいた。ISSの模型やパネル展示も行った。四国内では当館以外には開催が無かったため、県外からもご利用いただいた。

成果（利用者の反応や数値等）

実施日：令和6年6月23日  
参加者数：47名

女子中高生の理系進路選択支援プログラムの実施



実施内容

県内の女子中高生を対象に理系進路の選択、そして県内大学の進学や地元企業への就職を選択肢に考えてもらうこと目的に理系分野で活躍する女性研究者・社員の方の講演やサイエンスショーを実施した。



(1) 講演会  
「ぱぱとはる」によるサイエンスショー、京乃はる氏による理系進路選択のロールモデル紹介、福岡亮治氏による教員・保護者目線の講演をしていただいた。当日参加できない方向けにオンラインでの動画配信も行った。



(2) 学校訪問  
県内中学校・高等学校を訪問し、中学生に対して理系進路選択後のロールモデルを紹介した。また、教員向けに進路選択に関する情報提供も行った。

①徳島県立那賀高等学校（オンライン）

②徳島県立那賀高等学校

③阿波市立吉野中学校

④阿南市立加茂谷中学校

⑤三好市立井川中学校

⑥阿南市立那賀川中学校

⑦東みよし町立三加茂中学校

(3) 実験体験

県内外の大学や企業より講師を招き、最先端の実験を体験する教室を実施すると共に、講師や学生スタッフ自身の進路選択のロールモデルを紹介した。



<各回テーマ>

- ①「雲の作り方と科学」
- ②「食品中の合成着色料を抽出しよう！」
- ③「建物を地震に対して強くしてみよう！」
- ④「植物の培養法メリクロンについて学んで体験してみよ！」
- ⑤「全体報告会」

成果（利用者の反応や数値等）

(1) 講演会

参加人数：合計 33 名

実施日：10月1日

(2) 学校訪問

参加人数：合計 426 名

実施日：

①令和5年7月10日：170名

②令和5年8月28日：24名

③令和5年9月8日：51名

④令和5年11月22日：23名

⑤令和5年11月27日：18名

⑥令和5年12月8日：86名

⑦令和6年1月17日：54名

(3) 実験体験

参加人数：合計 79 名

実施日：

①令和5年7月9日：37名

②令和5年10月22日：20名

③令和5年11月11日：7名

④令和5年12月2日：11名

⑤令和6年3月22日：4名

## 渦の道・大鳴門橋架橋記念館

### ハザードマップのQRコード掲示



#### 実施内容

8月8日に発表された「南海トラフ地震臨時情報」を受け、来場者の安全を最優先に、入場口や展望室および第1～4休憩所にハザードマップのQRコードを掲示した。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

スマートフォン等を通じて、来場者が必要な防災情報に迅速にアクセスできるよう対応している。



## 川口ダム自然エネルギーミュージアム

### 「とくしま自然エネルギー探検隊」の実施



#### 実施内容

川口ダム自然エネルギーミュージアムが立地する那賀町の魅力を外部に発信し、また観光を通じた地域経済の活性化を目的として、1泊2日親子バスツアー「とくしま自然エネルギー探検隊」を開催した。



#### 成果（利用者の反応や数値等）

参加者アンケートで、イベントの内容についての感想は、「とてもおもしろかった」15件78.9%、「おもしろかった」4件21.1%、「おもしろくなかった」の回答は0件であった。



## とくしまマルシェ・イベント運営

### SDGs ワークショップの開催



#### 実施内容

「とくしまマルシェ」にて毎月 SDGs ワークショップを開催している。まずは、SDGs って何だろう？と SDGs を知ってもらうことを目的とし、様々なワークショップを通して実際に体験していただき関心を持ってもらえるよう取り組んでいる。

令和 6 年度実施回数：毎月最終日曜日 6 回  
（4 月～ 8 月時点）



#### 成果（利用者の反応や数値等）

毎月、基本的にお子様向けワークショップであるため、参加者は 10 人前後と多くはないが、体験していただいた方からは、楽しく学ぶことができたという好評であった。

参加者数：59 名（5 回の合計）

### ナイトマルシェ「徳島夜市」の開催



#### 実施内容

徳島市中心市街地における「ナイトタイムコンテンツ」の不足を解消し活性化の為「徳島夜市」というナイトマルシェを開催した。（7 月～ 11 月までの 5 回開催予定）

#### 成果（利用者の反応や数値等）

店舗数は 10 ～ 20 店ではあるが、徐々に認知され出し、今後のナイトタイムコンテンツになるであろうと期待している。利用者も朝～昼のマルシェとは違った客層であり、喜んでいただいている。



「ぶどう狩り」体験の実施



実施内容

商業施設でお子様を含むご家族を対象とし、開催時期が最も旬な「ぶどう」の収穫を疑似体験していただくイベントを実施した。自分で選んだぶどうの軸をハサミを使って実際に切る体験することで、収穫方法や収穫することの楽しさを知ってもらうと共に、季節の食材について知識を深めていただいた。農業へ興味を持つ機会の創出を行いながら、開催地域の特産品については勿論、野菜や果物の旬の時期についての知識定着も図っている。SDGs 目標 No.4「質の高い教育をみんなに」やSDGs 目標 No.11「住み続けられるまちづくりを」、SDGs 目標 No.15「陸の豊かさを守ろう」の3つの目標に貢献することができた。



成果（利用者の反応や数値等）

1日100名様分の整理券が配布開始10分で終了となるほど盛況で、お客様の関心を集めることができた。収穫するぶどうは粒が大きく、重量感のあるぶどうであったため、体験したお客様は満足した様子であった。ただ単にぶどうを持って帰るだけではなく、収穫用のハサミを使用して実際に軸を切るなど、実地に近い収穫を模擬体験することで、滅多にできない体験をすることができたと大変好評であった。

「阿波おどり」運営事業の実施



実施内容

商業施設で阿波おどりイベントを実施した。「地域密着」を目標に掲げているクライアントのご希望に沿えるよう、弊社と繋がりのある有名連に出演を依頼し、施設内の通路での流し踊りやイベントスペースでの演出を凝らした演舞を披露していただいた。徳島県の文化を身近に感じていただくと共に、地域の文化を広め、持続可能な観光業を実施するまちづくりのきっかけになるよう、SDGs 目標 No.8「働きがいも成長も」とSDGs 目標 No.11「住み続けられるまちづくりを」の2つの目標に貢献することができた。



成果（利用者の反応や数値等）

お盆の4日間を通して、約5,000名様様の来場者を記録する盛況ぶりであった。イベントスペースや施設内の通路が観客で満たされるほどで、多くのお客様に有名連の洗練された伝統的な阿波おどりを楽しんでいただけた。中には輪踊りを実施し、お客様と一緒に踊っていただく連もあった。ただ観るだけではなく、体験も通じて阿波踊りを五感で感じていただくことができた。